

山と海はつながっている

小岱山からみる荒尾

体験記

平成24年7月3日に、荒尾干潟がラムサール条約湿地に登録されました。これをきっかけに、今まで以上に荒尾干潟の賢明な活用をすすめていきますが、そのためには環境の保全も一人一人が意識していくことが大切です。海の影響を受けます。このことを考えると、干潟の環境を保全するには、海に注目するだけではいけないと気づきます。

今回は、身近な山・小岱山に目を向け、実際に登ってきました。

登山に挑戦

8月6日午前7時30分、小岱山駐車場を出発。ここから登山口まで坂道が1キロほど続きます。到着する頃にはすでに足が疲れてしまい、運動不足を実感しました。



▶中央コースの登山道。やさしい木漏れ陽と澄んだ空気が心と体を癒してくれます。

岳山頂に到着。眼下に荒尾・大牟田・長洲・玉名のまちが広がります。有明海や雲仙も一望でき、視界をさえぎることなく広がる景色はとても気持ちよかったです。頂上にたどり着いた達成感や、広がる視界と吹き抜ける風の爽快感には、普段味わえない喜びがありました。

気が付くと汗でシャツが重く、色を変えています。有酸素運動をしながら、足腰の筋肉も使うというところは、全身運動になります。山登りが健康づくりにいいことを体感しました。

また、頂上には多くの登山客が談笑していました。「毎日登っています」「珍しいキノコを見つけて興奮しました」「体調管理にいいんですよ」「仲間と毎日会えるのも楽しさの一つです」と、みなさん山を楽しんでいます。小岱山が一つのコミュニティスペースになっています。

山と海はつながっている

山頂で長洲・玉名方面に目を向けると、菊池川が見えます。大きくうねってまちを縫うように有明海に続いていました。荒尾を流れる菜切川は源流を小岱山に持ち、隣の長洲町で有明海に注いでいま

瞬間、やさしい感触が足に伝わります。登っていくうちに、さっきの坂道より足が疲れないことに気が付きました。木の葉や土が衝撃を吸収し、足にやさしく感じました。

しばらく行くと小川のせせらぎが聞こえてきました。耳を澄ませば、鳥のさえずり、虫の音、風がやさしく木々を揺らす音が、心を和ませます。空気も冷たく澄んでいて、体が浄化されるような気持ちになります。自然には、心を癒してくれる力があると感じました。

頂上に無事到着

40分後、501メートルの筒ヶ

す。こうして実際に見てみると、海は山とつながっていることを実感します。



▶ビクターセンター前。源流があつまり、菜切川として荒尾に流れていきます。

小岱山の魅力再発見

こうして自然とふれあうと、自然の魅力を感じ、人間と自然は共生していることを実感します。それと同時に、小岱山に豊かな自然があることはとても貴重だということに気づかされます。

ラムサール条約で荒尾干潟に関心は集まりますが、同じように小岱山の自然の豊かさにも目を向けることも大切だと感じました。

そして実際に、小岱山の魅力に引かれて自然とふれあいながら生活を楽しんでいる人たちに出会っていました。

次ページでは、小岱山の自然と親しんでいる人に、小岱山の魅力を聞きました。

登山・林道

中央コースや展望所コースなど、8つの登山コースがあります。初心者には中央コースと観音岳コースがお勧め。展望所からは荒尾・長洲・玉名・雲仙などが一望できます。四季によって表情を変える小岱山は、自然を楽しむことも健康づくりにもピッタリです。登山コースについては📍ビジターセンター☎73-3900

▶木漏れ日の中を歩くのも気持ちがいいです。



小代焼

小代焼は400年の歴史があり、国の伝統的工芸品に指定されています。荒尾には7つの小代焼の窯元があり、ふもと窯には展示資料館(☎68-0456)があります。このほか市内には五喜窯、光工房、翌檜窯&リベルテの3つの窯元もあります。観光物産館にも展示・販売されています。📍小代焼窯元の会(事務局・末安窯内) 荒尾市府本1712番地2 ☎68-1623

▶伝統ある焼物を手に取ってみてください。



そば&散策

海行原に小岱山で採れたそばをたべられる食事処「里山の蕎麦づくし・ゆるっと」があります。「蕎麦づくし御膳」が好評で、食後には自然いっぱいの里山を散策できます。営業は午前11時から午後2時まで、3日前までに予約が必要です。📍海行原ふるさと愛好会事務局 川上祥一 ☎090-8414-2748

▶自然の中、手作り看板が迎えてくれます。



小岱山に遊びに行こう

小岱山ふるさと自然公園

キャンプ場やハイキングコースなどがあります。ビジターセンターは小岱山に生息する植物の資料展示、登山情報の紹介、休憩所など、自然を楽しむレクリエーション施設です。駐車場から登山口も近いので、登山にも便利です。📍ビジターセンター 玉名市築地小岱地1512-62 ☎73-3900 開館時間・午前9時~午後4時30分(火曜・木曜の午後は休館)

▶ビジターセンターは入場無料です。



豊かな自然に感謝

身近な山・小岱山は県立自然公園で、九州百名山の一つです。小代一族が築いた筒ヶ岳城跡がある山で、トキワマンサクの数少ない自生地でもあります。このように小岱山の魅力は語りつくすことができません。土や葉を踏み締めて山を歩く心地よさは、今でも忘れられません。筒ヶ岳からの眺めは圧巻で、自分がかさく思えました。山の栄養は、川を経て海に流れ出ます。小岱山の湧水は、菜切川を通じて有明海へと流れ込みます。ラムサール条約に登録された荒尾干潟も、山からの贈り物のように感じられました。発見の多い登山でした。今回、小岱山に登ったことで、荒尾は有明海だけでなく、小岱山にも育まれていることを実感できました。私たちは身近な自然と共生しながら生活していることを感じ、山と海がある荒尾の自然に感謝したいと思いました。荒尾の自然環境を守ることは、住みよい荒尾を作ることです。この荒尾の豊かな環境を未来まで守るために、私たちに何ができるでしょうか。身近な里山・小岱山に触れることできっと見つかる新しい魅力の中に、そのヒントがあるような気がしました。

自然は癒し。自然が生活に溶け込んだ生活は幸せです。

府本区 山下鷹郎さん



やました・たかろう 昭和21年生まれ。自然の中の生活に憧れ、荒尾に移住。果樹や野菜、米などを無農薬栽培し、自給自足を楽しむ。ハーブの魅力に引かれ、6年前にハーブ研究会に参加。現在は39人の会員が所属するハーブの会の会長を務める。

退職を機に荒尾に移り住んで6年になります。小岱山は自然が素晴らしいのいいですね。天然の山ぶどう、野イチゴ、アケビなどが豊富にあり生活を楽しませてくれます。自宅周辺には桜、クス、ツバキ、サザンカが生い茂り、全く飽きがきません。何より自分が癒されます。今は自然のものを生活に取り入れたいと思います。『荒尾ハーブの会』でハーブを育てています。ローゼルジャム、ハンドクリームなど、食品や実用品を作って楽しんでいきます。ゆくゆくは商品化できたらいいなとメンバーと相談しています。ハーブは種類も豊富で、活用法も無限大。やりがいがありますね。運動公園にはハーブガーデンを作っています。運動しながら香りと花を楽しんでください。ハーブ教室も年に数回開いているのでぜひご参加ください。自然には人間を癒す力があると思います。ハーブや自然が生活の中に溶け込んでいる家庭を増やすのが私の夢です。小岱山の暮らしを楽しみながら夢を実現させたいですね。 ※ハイビスカスのジャム

▶ハーブソルトの試作会、新作づくりに励んでいます。



▶200坪のハーブ畑には、50種類あまりのハーブが育てられています。



山は楽しい

カメラ片手に「ちよっと行ってくる」そんな気軽さがいいですね。

みどり区 甲木喜一郎さん

退職を機に横浜から荒尾に戻ってきて2年になります。以来、毎日のように、カメラ片手に小岱山に登っています。「ちよっと登ってくる」と妻に声を掛け、早朝6時に家を出ます。里山に登る気分です。小岱山の魅力は、まず登りやすい。片道40分足らずで頂上へ行けます。四季折々の花や植物、キノコが豊富なところも興味を引かれます。それに、毎日登ることでメタボ対策など体調管理に効果的なのもいいですね。小岱山含め、山に登るのは、登山家か愛好者がほとんどです。それ以外の人はあまり山には登りません。何か楽しいイベントがあれば...例えば、6月開通した玉名・南関の防火林道(東部小岱山線)を利用して「小岱山一周ウォーキング」を開催したらどうでしょうか。ひよっとしたら全国から愛好者が集まるかもしれません。また、危険な登山道もあるので、行政と愛好者やボランティアと一緒に整備できたらと思っています。近隣の人がもっと小岱山に遊びに来てくれることを願っています。

▶道中の彼岸花。季節を感じるのも楽しさのひとつです。



▶唐戸岩からの眺め。雲仙と荒尾を一望できるのも登山の楽しみ。



かつき・きいちろう 昭和25年生まれ。山に目覚めて27年あまり。小岱山には年に200回ほど登る。登山を始めると次第に写真にも魅かれ、横浜時代では「日本山岳写真協会」に所属。 ※右の2枚の写真は甲木さんの提供